

(別紙4) 令和 元 年度

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1971200231	
法人名	医療法人聖仁会	
事業所名	グループホームうらら	
所在地	山梨県富士吉田市ときわ台1-1-26	
自己評価作成日	令和元年9月12日	評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/19/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会
所在地	甲府市北新1-2-12
訪問調査日	令和元年9月26日(木)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者一人一人が自分らしく生活できるように支援しています。
 日常生活には特に決まった時間はなく利用者様に合った時間でケアをしています。希望があれば外出、買い物など自由に職員と一緒に出掛けています。家族との「絆」を大切にしており、月に1回は家族会を開催してイベントや会食などして利用者様と家族の時間を作っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は富士山の麓に位置し、周囲には住宅、商店街、警察署、スーパー等があり生活しやすい環境である。鉄骨造り2階建ての1階はデイサービス、2階が1ユニットのグループホームになっていて法人の特徴を生かした医療的サポートが充実し、地域や行政との連携を取りながら、利用者の支援や家族のサポートに取り組んでいる。家族会が月1回開催され、家族と職員の情報や意見交換しながら、利用者も交えて食事会等を楽しむ機会となっている。法人の理念に基づき、利用者一人ひとりの個性や思いに寄り添い、アットホームな雰囲気の中で楽しくゆったりと生活できるように全職員の連携を密にして支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる(参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている(参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある(参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている(参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている(参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている(参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている(参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている(参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている(参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている(参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている(参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

（様式1）

自己評価および外部評価結果

事業所名：**グループホームうらら**

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づき運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	介護保険法を基に「尊厳」「敬愛する心」を重視した理念があり、全職員が理解し、日々の支援の中で心掛けている。 新人教育から法人全体での勉強会でも常に継承している。	法人の理念を踏まえ「利用者の思いに寄り添うケアをしよう」を事業所の目標にして、事業所内の目に触れる場所に掲示したり、カンファレンスをおとして職員間で共有している。具体的には、排泄、食事、入浴、移動を推進項目とし、ケアする際の言葉づかい等に留意し実践に繋げている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域自治会には積極的に「入らせて頂いており、盆踊り大会や文化祭への出品も準備している。買い物も近くのスーパーでするように心がけている。また、学生の研修やボランティアの受け入れれている。	自治会に加入し、回覧版で地域の情報を得ている。自主防災訓練や夏祭りに参加したり、文化祭には作品を出展している。近くのごみ収集ステーションの清掃にも職員が参加している。日頃買い物に行くお店の店員さんと顔見知りの関係や、地域のボランティア、学生の職場体験等も受け入れ地域との関係を築いている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見守りネットワークの拠点(委託)されており、地域での支援協力知性をとっている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催し、ケアの内容・活動やヒヤリハットの報告をし、今後の課題について意見交換をしている。その内容を職員のカンファレンス等において問題解決に向け話し合っている。	会議は参加しやすい夕方に開催し、事業所の報告や関係者からの意見を聴いて情報交換する他、年2回は虐待防止、身体拘束規制委員会、ヒヤリハット等の研修会をしている。出席者それぞれの立場から意見や質問があり、カンファレンスで検討している。災害対策では地域の防災士を招いて学習会を実施した。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市担当者が運営推進委員会のメンバーに入っており、情報交換や相談・助言を得ている。気づきや疑問など都度相談しながらアドバイスを頂いたり、ホームの実情や取り組みについても説明している。	運営推進会議で市担当者と情報交換したり、相談、助言をもらっている。事業所の現状を報告し、連携を取っている。見守りネットワークの拠点として市から委託され、地域の高齢者の見守りに協力している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の禁止マニュアルを作成しており、法人の定期的な会議で全職員への意識啓発を行なっている。	法人の定期的会議に全事業所のリーダー以上が出席し、業務改善委員会がヒヤリハットを含む身体拘束防止等について協議している。内容は各事業所の全職員に周知している。スピーチロック、言葉づかい等その都度職員同士で注意し合い、管理者からも注意するようにしている。夜間以外は玄関は開錠している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束の禁止マニュアルの内容を理解して、抑制や拘束をしないケアに取り組んでいる。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者が定期的な外部研修に参加し、個々の利用者様への必要性に応じた際には活用できるように本人・家族・行政担当者との情報共有している。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には自宅に訪問し、重要事項を掲示し書面にて十分な説明し、理解、納得の上で同意を頂いている。			

（様式1）

自己評価および外部評価結果

事業所名：

グループホームうらら

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月1回の家族会や日々の申し送りやカンファレンスにて必要に応じた適時にも利用者様の対応の業務改善に努めている。	月1回家族会が開かれ、お茶会や食事会をしながら家族からの要望や相談を聴く機会がある。面会時にも家族等に声を掛け何でも言ってもらえるよう配慮している。利用者のこれまでの生活を継続した嗜好や健康管理に関する要望があり対応している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回、全職員に対し、アンケートをとり管理者との面接を行っている。月1回のカンファレンスでも意見や提案を聞く機会を設け、運営業務に反映できるようにしている。毎月行う、営業会議や業務改善委員会にて各事業所の意見や提案、問題点を揭示し業務に反映させている。	年2回職員アンケートを実施し、個人目標と達成度から自己評価し管理者との面接を実施している。毎月のカンファレンスでも職員から意見や提案を聴く機会があり、業務改善に繋がる提案に対応し、事業所の全車面にドライブレコーダーを設置し反映した。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の施設長面接の実施で努力や実績の評価や業務への要望の聞き取り等を行っている。また、法人全体での勉強会や行事等の開催で向上心を失わないよう明るく楽しく働けるように努めている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修について長期的な計画にて、全職員が平等に研修が受けられるよう配慮している。 内部研修では、法人全体で研修委員会を設置し研修を行っている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会への加入継続し、積極的に研修に参加したり、市町村・他事業所主催の研修等に参加するなど交流を図りながら、サービスの質の向上に努めている。			
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学者や利用申し込みに来る際には、ご家族が頼まれることが多い。ご家族を通して、ご本人の事をうかがうことが多く入居前にはご本人にホームを見学して頂くように支援している。ご本人が来所されたときには安心感が得られるように努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	自宅を訪問したり、見学をして頂き、利用に向けての不安や要望を聞いて頂くようにしている。ご家族との対話を大切にし、信頼関係が築けるようにし、どのように対応して頂くか職員間でも十分に話し合いを行う。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の情報を他の関係機関やご本人やご家族より聞き取り、検討しグループホームの特徴を理解して頂き、必要とされるサービスについて見極めてゆき、入居を急ぐときは、他のサービスや事業所も紹介している。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	グループホームの特徴を活かし、家事を中心にご本人と職員が共に作業を行うようにして、明るく楽しく過ごせるようコミュニケーションを密にとっている。			
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の日常や変化等については、密に情報交換が出来る様に心掛けている。外泊や外出を積極的に支援している。			

（様式1）

自己評価および外部評価結果

事業所名：**グループホームうらら**

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様との馴染みの方にも家族会にも参加を促し一緒に過ごしてもらう時間をつくっている。また、自宅や行きたいところへの外出支援も行い、地域の人と会う機会を設けている。	毎月開催される家族会には会社の同僚だった人や甥、姪等も参加して利用者とのひと時を過ごしている。また、美容院や商店街に出掛けたり、自宅に様子を見に行くこともある。事業所の自室から自宅が見えるので安心して生活できる方もいて、馴染みの関係が途切れない支援に取り組んでいる。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様個々の性格を把握して職員が間に入りながら楽しく会話したり、喧嘩したり、支えあい生活できるように支援している。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	連絡を取り合うことは殆どなくなってしまうが、町であった徳は近況等を話したりしている。また、退去後は情報提供や家族の精神的なフォローをしている。			
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	どのような暮らしが心地よいのか、必要なか、情報を共有し職員間でしっかりと話し合い個別援助につなげてゆく。言葉の断片や表情からも思いをくみ取ってゆくよう支援している。	入居前に訪問して実際の生活を見たり、本人や家族、関係者の意見を聞き入居後にどのような生活をしたいか情報を得ている。寝具、嗜好品、得意な事、呼称等その人にとって大切な事、必要な事を把握して入居後も継続している。思いを伝えるのが困難な場合は、日課表の記録で変化を把握し支援を共有している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族の情報のほかに普段何気ない会話からも、馴染みの暮らしが見えてくることもある。これまでの暮らしを基にグループホームでどう暮らしていたか定期的なカンファレンス等で検討している。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	定期的及び必要に応じカンファレンスを開き、利用者様の日常について意見交換を行い職員全員で把握できるようにカンファレンスノートを活用している。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月1回、職員全員でケアカンファレンスを開催し、利用者担当を中心に意見やアイデアなどを共有し、問題点を話し合い、計画担当者が介護計画を作成している。	入居時の介護計画作成は、聴き取りや訪問してアセスメントし情報を得て、暫定的な介護計画を作成している。毎月のカンファレンスでモニタリングし、6か月から1年で見直している。変化があればその都度見直し、必要な関係者と共に現状に即した介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は、個別記録に記入している。 また、必要に応じて身にカンファレンスを開催し個別記録を基に必要なケアの見直しを行っている。気づきやメモなど使用し利用者様の様子を申し送りノート等で情報共有している。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人とご家族の希望をと入りれ、併設しているデイサービスに参加したり、マッサージ等を導入する支援を行っている。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内のスーパーや商店へ嗜好品を買いに行ったり、季節に応じた好みの洋服を買いに行くなど近隣商店を利用している。時には地域ボランティアに来てもらい利用者様に楽しんでもらっている。(和太鼓演奏、大正琴、コーラスなど)			

（様式1）

自己評価および外部評価結果

事業所名：**グループホームうらら**

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人とご家族の希望に応じた受診が行えるように配慮している。また、必要は時には記録を用意し、医師と情報交換に努めている。	ほとんどの利用者が、入居前のかかりつけ医を受診しているが医師との相談で訪問診療を受けている方もいる。受診の際に必要な時は書面で伝えている。専門医への受診は家族対応だが、不可能な時は職員が付き添っている。予防接種、訪問歯科等利用者のニーズに応じた支援をしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々、併設のデイサービスの看護師と法人内の看護師にその都度、専門的視点から助言・対応・指導を貰っている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	医療機関に情報提供を行い、調印関係者や家族共に状況経過を確認している。また、病院地域連携室や看護師とも連絡を取り、退院するまでの計画書を医師同意のカンファレンスしている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時の契約時、重度化や終末期について事業所としての方針を説明し、確認を行っている。重度化した場合は、早い段階から主治医や家族、職員間においても方針を共有し、病院転院や他施設も含めて支援に取り組んでいる。	入居時に重度化や終末期について事業所の方針を説明し、方向性を決めているが、本人や家族の意向が変わることもあるので主治医や関係者、職員等を交えて協議し、方針を共有している。看取りについては職員間で学習し実践に繋げている。希望があれば家族が宿泊できる体制をとっている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人研修において、全職員、普通救命講習を開催している。また、緊急時対応マニュアルを参照し、落ち着いて対応できるように整備している。24時間看護師に連絡し指示を貰える体制は整っている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て日中夜間を想定した避難訓練を行っている。同一法人内においても協力体制が出来ている。地域については運営推進委員メンバーの協力を得て自主防災に参加している。	年2～3回、夜間想定や法人の合同避難訓練を実施している。1回は消防署が参加し立ち入り検査を実施し、助言を得ている。避難誘導は非常口に近いホールに集まり、移動可能な人員が確保されるまで待機することになっている。訓練時の記録を職員間で共有し、改善策を検討し地域の訓練にも参加している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	これまでの生活歴等の情報から一人一人に合わせた言葉かけをしている。人格の尊重は理念にも合わせて当たり前のこととして考え理解している。	職員サイドの都合で支援することなく、利用者本位に考え、信頼関係を築くようにしている。介入の仕方が大事であり、一人ひとりに合わせている。排泄に関する言葉は記号でやり取りし、誘導の仕方を工夫している。書類等は目に触れない場所に管理している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	様々な場面で、ご本人が意思決定できるよう、言葉かけに注意し、ご本人たちのお話を尊重している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしい暮らしを優先し、ペースを大事に支援するよう努力しているが、ご本人のペースで生活出来ている方もいる。しかし、介助中心な利用者様もいるため、家族の希望も取り入れ支援している場合もある。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時などご本人がおしゃれを楽しめるよう支援は行っている。また、ご家族に協力を頂きご本人の馴染みの物やご本人に合った衣類を用意して頂いている。			

（様式1）

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホームうらら**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	菜園で取れる季節に応じた食材の利用や、利用者様の好みに合わせた食事づくりに心掛けていえる。日常生活の中でも出来る範囲で食事づくりや片付け等にも多く参加して頂き役割を持って生活できるよう支援している。	朝、夕食は利用者と共に下ごしらえし、調理や盛り付けをし、片付けも行っている。昼食の調理はデイサービスの厨房で行い、配膳のみしている。食材は週3回近くのスーパーに行き利用者と共に、好みの物を選んだり、おやつ作りの材料を購入している。誕生日は寿司やウナギ等希望の食事を楽しみ、外食もしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様の活動の程度に応じ摂取量は調整している。また、便秘や下痢、風邪等に応じ食事内容や形態を変えている。水分量はきちんと確保できるよう心掛け利用者様の施行に合わせている。記録や申し送りをこまめにし、健康状態を管理している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事毎の歯磨きやうがいの支援は同法人内の歯科医・歯科衛生士等が不定期に指導があり、個々にあった口腔ケアを行って職員への指導も行い衛生保持に努めている。			
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	重度化している利用者様はおむつやパットを利用しているが、排泄のリズムを確認し状況に応じ布パンツ等に変更して対応している。また、個々の利用者様の時間に合ったトイレ誘導を行っている。	利用者の半数近くが下着を着用している。排泄チェック表で利用者のパターンを把握して、個々の方のリズムに応じて支援している。オムツ使用者はなく、夜間もトイレ誘導している。出来るだけ布パンツに近い状況になるように支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表にて、定期的に排便できているか確認している。また、適度な運動を行い、できるだけ食事や水分などでコントロールできるように心がけている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことのできる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は週2～3回を曜日固定しているが、利用者様の希望があれば入浴を出来るだけ利用いただいている。また、希望の時間に沿うように調整しながら、一人ずつゆっくりと利用してもらっている。	毎日、午後から入浴準備をしている。週2～3回の入浴を支援しているが、希望に応じて出来るだけ入浴を楽しんでもらっている。入浴順序が一番または最後が良いという希望に応えたり、シャンプーやリンス、ボディソープも個人の好みの物を用意してある。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	時間にとらわれず、利用者様が自宅で生活していた習慣リズムで過ごして頂けるよう支援している。利用者様とよく話をすることで、夜間の安眠の確保が出来る様、日中の活動への取り組みをしている			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	確実な服薬が出来るように、担当者ご家族、主治医、薬剤師等連携を取り管理に努めている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節行事や日々の散歩、買い物外出等で気分転換をしていただけるよう支援している。洗濯もの干し・たみや食器洗い・拭きなど個々の残存能力を活かした日々の役割をもった生活を送って頂けるよう取り組んでいる。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけるように支援している	出来る限り、ご本人の希望があれば対応できている。何気ない言葉からも希望をくみ取り希望が叶うようにしている。自宅や青果、馴染みのお店などの外出も家族と共に連携をとりながら支援している。	食材購入、散歩等は日常的に行い本人の希望に応じている。スーパーでは食材選びだけでなく、洋服を見たい人がいれば店員さんと話しながら楽しんでいる。花見、ランチ、道の駅等にデイサービスの車を使って、外出する機会もある。家族とは自宅や馴染みの店に出掛けることがあり協力体制ができています。		

（様式1）

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホームうらら**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物場面では、個々の能力に応じ支払いをお願いすることもある。日々の管理は職員が行っている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話については、何時でも自由に利用できるように支援している。また、年賀状などご家族あてのものについてはできるだけご本人に書いて頂けるよう支援は行っている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を探り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	その時々々の雰囲気に合わせて曲をかけたり、季節感を感じて頂けるよう一緒に作品を作り飾ったりしている。ご本人の生活歴を探し馴染みや使い勝手等を工夫している。職員同士意見交換しながら試行錯誤している。	ホールには布製の手作りカレンダー、テレビ、大きなソファが置かれ利用者が余暇時間をゆっくり過ごしている。小上がりの和室は十五夜、クリスマス、七夕等の季節行事の物を飾ったり、職員が昼食に使用し、利用者と食事時間を一緒に過ごしている。清掃は午前中に行い利用者の状況に合わせてテーブルや椅子の配置を考えている。情報誌を決まった場所に掲示している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペース内には、ソファーや和室があり、それぞれ好きな場所で談話したり、一人でゆっくりしたいとくつろぐスペースは確保している。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の縁のものをご家族の協力の元している。また、衛生面にも気を配っている。	押入れ、ベッド、カーテン、エアコン、壁に移動式フックが備え付けてある。家族の写真、ぬいぐるみ、テレビ、椅子、仏壇、タンス、趣味の手芸品等を配置し個々の方の入居前の生活を大切にしている。居室清掃は各自が行い清潔を心掛けている。加湿器、扇風機は持参し、使用して調整しているので室内管理に留意している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロア、居室に関しては全面的にバリアフリーで、壁にも細かく手すりを設置している。また、常に利用者様と整理整頓を心掛けている。			